

## 第 25 回休眠預金等活用審議会ワーキンググループの議論の概要

### 1. 緊急枠について

- テーマも同一、公募時期も同一となると、通常枠と緊急枠を取り違える可能性が出てくるため、双方の違いを含め、それぞれが活用されるようにしっかりと発信し、公募してほしい。
- 災害支援の知見を活用することは重要。能登で休眠預金を活用した事例を含め、きちんと可視化・発信してほしい。

### 2. 出資事業について

- 出資事業については、申請の動向に応じて額を上げるということで、進展に期待。
- 劣後出資の導入はよいと考える。資金の行き渡りにくい分野への呼び水となることを期待。

### 3. 2024 年度総合評価について

- 出口戦略として、企業と団体の連携が今後益々重要と考える。
- PO の役割・育成は引き続き重要。彼らの存在により地域力がアップする。
- 「本制度をきっかけに、広く社会一般の共有財として生まれたもの」をまとめていただき感謝。発信の方法についても引き続き検証をお願いしたい。

### 4. その他制度全般について

- 休眠預金制度の立上げ期から見守っていた立場からすると、ここまで来た事が非常に感慨深い。
- 多くの業務が増える中、事務局体制の持続可能性についても留意してほしい。
- 広報の強化を引き続きお願いしたい。現状どういう対象にリーチしていて、何が足りていないかをよく研究して広報戦略を立てるべき。
- 今は現場からの申請による受け身の形だが、今後実験的に、JANPIA から意思表示をした資金の流し方ができると良いのではないか。
- 出資に限らず、助成においても自立しやすいところに資金が集まりやすく、その結果として取り残される課題があると以前から感じている。社会課題の構造分析等をお願いしたい。
- 社会課題解決に取り組む活動が行政で仕組み化されるところまでフォローいただけると、より休眠預金の価値が上がるのではないか。